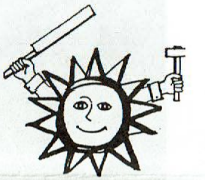


障害者の自立へ一歩

ハンディをささえる
モノづくり通信

福祉機器住宅研究会
発行責任者
代表・杉浦史郎
765-4041
制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06(201)8033



訓練は若い時から

グループホームをステップに

中部障害者解放センターは、近鉄北田辺にセンターと二つの作業所を運営しています。主に脳性麻痺障害者の自立をサポートするという目的で、10年前に開設されました。

センターといっても普通の2階家で、貸本業や粉石鹸の梱包等の作業からスタートしました。

10数年前の環境を振り返って何が変わったかといえは、それは車椅子の普及です。当時は屋外では勿論のこと、屋内でも減多にみかけることはありませんでした。

障害者の大半は「家から出ない」または「部屋から出してもらえない」のどちらかで、いわゆる「座敷」状態です。

喫茶店への立ち寄りや断られる等、街中で受ける差別も体験するようになるからで、いわゆる「座敷」状態です。

熱く話される石田氏

出るのが怖い」と再び自分の部屋へ閉じこもってしまふ例も出てきました。

家を出て施設に入るという図式も一方は存在しました。しかし施設の立地として、殆どが駅が遠い、つまり地域社会から隔れていて、即ち家族や友人の足も自然に遠のいていく、さらに厳しい規則等の理由で、本人も家族もやがて拒否という現状でしな。

そんな過程の中で「障害者との関わり方」という点で私自身二つの転機を体験しました。

一つ目はK君との出会いです。全てを拒絶し消極的な態度をとるK君に手を焼いておりましたが、ある時その原因が「耳が聞こえない」ことにあると気付いたのです。

先ず手話や指文字を教えました。このことによりK君は次第に人々の会話の中に入れていけるようになりました。今までの物事の結果だけしか知らず、とても不満を持っていたことが、常に人の会話の中に居てプロセスから知ることが出来るようになる、顔の

変な苦労を体験することになりました。

翌日に京都の病院を通じて電話があり保護されていることを知りました。なんと電車まで利用して行動範囲を広げていたのです。

無賃乗車が悪いことであり、切符の買い方を教わると、何時の表を眺むことを学び、やがて「計画的な家出」をする。ほんとに完全な「旅行」ですね、これは。

転機の一つ目はNさんの死でした。

Nさんはセンターの生活に馴染めずストレスが溜まると、年々経て負担が限界に達したのです。一旦家に戻ったのですが、以前のようにはお母さんの介護は受けられないうえ、結局施設に入ることになりました。

初体験の施設生活は、お母さんの介護に慣れ切っていたNさんの心は割れ切ったものでなく、更にストレスを積み重ねていくなられた。

欧米ではすでに障害者が障害者の自立を手助けする

かんでんエルハート

障害者に快適な作業環境

関西電力では従来から障害者の方々の雇用に積極的に取り組んでおりました。この度就労のすんでいない知的障害者や重度身体障害者等の雇用を一層推進するため、株式会社かんでんエルハートを設立しました。

その内容について、かんでんエルハートの業務部長、中井志郎氏より、ビデオを交えながらお話ししていただきました。

この会社は、大阪府と大阪市の支援を得た第三セクター方式です。

車いすの障害者による各種印刷物のデザイン、聴覚障害者による封筒、便箋、名刺、パンフレットなどの印刷、知的障害者によるメイルサービス、花き栽培や花壇の植え替えと管理、肢

体不自由者によるノベルティ商品の箱詰めや包装、視覚障害者による産業マッシャーのサービスなど、あらゆる障害者に多様な職場が用意されています。

その上、楽しく仕事ができるように、障害者に配慮された安全設計、明るく快適な作業環境等、その素晴らしい取組みに感嘆いたしました。

また、38才でした。

この年令で自立は難しいのかと思うと同時に、Nさんの背景に今までの自立を阻む要素があったことに気付いたのです。

せめて施設体験だけでも、無いより有ったほうがよいということにも気がつきました。そしてその事を裏付ける事例とも出会うことができました。

「グループホーム」は自立のためのステップです。「親が倒れる前に自立」練習する場所です。本人が歳を取り過ぎる前に、若い時からの訓練が必要とす。

外出の練習や居の活動習慣を身につけるために作業所活動をとることはとても有効です。モノ作りが出来なくても、収穫した自然食品を売るという仕事もあります。作業所から街へ出て社会活動をする。色々な事を体験するために、先ず作業所へ通うことが重要なこととす。

欧米ではすでに障害者が障害者の自立を手助けする

レスパイト(Respite)の語源は、ラテン語のRespectumに由来し、「一定の期間の解放」「しばらくの間、猶予」の意味がある。

レスパイトサービスとは「障害児(者)をもつ親・家族を、一時期に一定期間障害児者の介護から解放すること、日頃の心身の疲れを癒、ほっと一息つけるようにする援助」と定義されている(厚生省心身障害者研究「レスパイトサービス」についての基礎的研究)。

同時に、障害者も日常の家族介護から解放される活動が行われている。そのシステムも存在している。

そんな影響は日本にも及び、関東には自立生活センターが出来ています。そこではプログラムのソフトを持ち、相談窓口を開いています。

関西ではまた従来からの2億円の資本金に4億円の助成を受けて作られた設備は、他の作業所とは比較にならないが、障害者のための職場環境づくりのモデルになることとす。

現在、59名の障害者が働いておられるそうですが、12名の求人にたいして17名の応募があったとか、いかに障害者の働く場が少ないかという現状に心がいたみます。

大企業がもっともっと手を貸してくれたら、本当のバリアフリーな世の中が実現するのだ、はがゆい思いでいっぱいです。

*ことば・コトバ

レスパイト

これからのレスパイトサービスは、まず障害者を預けることに対して、家族に心理的負担を与えないようなサービスの提供が求められる。

そのためには、身近な場所の一般住宅で普段の生活が送れるような拠点の整備や、専門知識・経験のある職員の配置が必要である。

家族の緊急事態の時や、本人・家族双方のライフシミュレーションのため、障害の程度に関係なく、すべての在宅知的障害者がサービスを利用できる、これがレスパイトサービスの理念である。

職員 石田義典



関電の取組みを語る中井氏

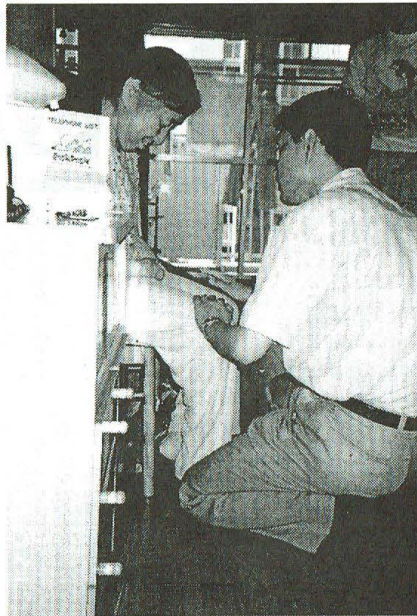
アイデア募集

本会では、障害者のグループホーム建設に協力する(設計・施工)要請を2件受けています。

1、「希望の家」2000平方メートルの敷地に、知的障害者が自立して社会生活を営めるよう、作業所を主とした施設(延べ約800平方メートル)を新築する計画。谷坂氏、鴻上氏が中心になって構想中。建設時期未定。

2、「大和川園」建設用地1000坪、隣接して300坪の借地(当面空き地で利用)。知的障害者47名のグループホームとレスパイトサービス施設(こども・コトバ参照)を建設する。6月に補助金申請用図面が必要。建設は本年度末

作業療法士がひとつひとつ確認



事例1

時間をかけて 手すりの設置場所を確認

A・ニード
B・日常生活と家屋状況
C・解決方法
D・改善後の状況と考察
Iさん・74歳・女性

A 転居したばかりで、今までと勝手が違う、部屋のあちこちに手すりが必要と思うが、本人が、なかなか同意しない。

B 長男と二人暮らし。脚と腰が痛むので這って移動することが多い。段差が多い。風呂に入りにくい。段

差も手すりに対応できそう。浴室にはバスボードやバスチェアを利用する。

D 手すりを5カ所設置。本人に手すりの設置場所を逐一確認するのに時間がかかった。また、目地板のきく場所がしも「壁うちセンサー」頼りで結構時間がかかった。

提案として下地材は、杉かラワン或は合板(12×15ミリ)でよいのではないかと。また、各ブロックに1×2セグメントを敷き詰めておいては如何。建物(特にマンション)の下地の入り方の一般的なあり方のマニュアルを知らなかった。

事例2

今では大満足 妻の説得でしぶしぶ改造

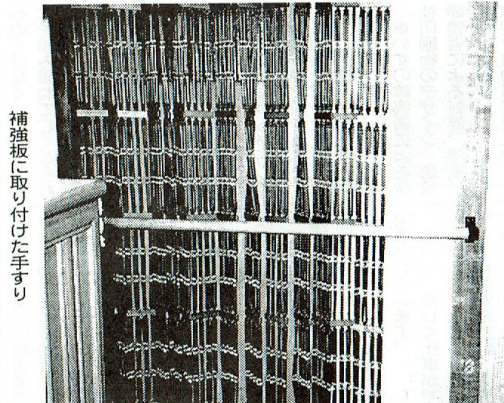
Nさん・82歳・男性
A 歩行困難のためトイレや風呂等に手すりをつけたい。
B 妻と二人暮らし。腎臓病のため、週一回人工透析、脱衣場、居間、トイレ

折に通院している。家業はたばこ屋で、上り下りが少し高くて上りにくい。
C 玄関に踏み台。浴槽内にバスチェア。風呂の中が手すりだけになるか

レ、ベッドサイドにり本の手すりを付けることで解決。
D 最初、本人は部屋の改造に反対していたが、妻の説得でしぶしぶ改造することになった。

事例3

使ってみては 浴槽台の高さを調節



補強板に取り付けた手すり

Sさん・83才・女性
A トイレに行くための踏み台、手すりなどを

つけて欲しい。
B 心臓病などのため歩行困難で、部屋の中は這って移動する。4階建て市営住宅の1階。

C ベッドからトイレへの通り道になる居間、玄関に木製手すり、トイレにステンレス手すりを設置。ユニバスへ入るため、高さ14センチの踏み台を木製で作る。

浴槽に入るための入浴スリッパはユニバスに設定した。浴槽に入るための入浴スリッパはユニバスに設定した。浴槽に入るための入浴スリッパはユニバスに設定した。

事務局会議報告

- ① 全国ボランティア会議準備経過の報告(今後の予定について協議。日時・9月11日午後2時～8時会場・IMPビル(OB))
- ② 「ボランティアの本」から取材依頼。
- ③ 設計施工標準仕様制作状況の報告。
- ④ 協賛会募集のための準備検討。候補企業のリストアップと紹介資料の作成を企画部が担当。5月に募集開始。
- ⑤ 大和川園グループホームに関して、佐藤園長の出席を得て要望等のヒヤリング。
- ⑥ 会報12号発行の準備。原稿執筆の手配。
- ⑦ 初期診断時の概算工費の判断基準について議論。データ整理による基準化と並行して、行政側窓口との意見交換の必要性あり。
- ⑧ 日曜大工講座開催について。全国ボランティア



中北清画

事務局より

☆通信費納入のお願い
「モノづくり通信」等を送付するための通信費等の協力金をお願いいたします。
年度毎に1,000円

☆3・4月のご寄付
西原富男さん 活動費をそのままご寄付いただきました。ありがとうございます。

定例会のお知らせ

- 《六月》
日時・六月一日(土)
午後一時三十分～五時
場所・大阪市立社会福祉センター三階五号室
テーマ・「アメリカCIL(自立生活センター)事情と日本」
講師・井内 ちひろ氏
事例報告その他
- 《七月》
日時・七月六日(土)
午後一時三十分～五時
場所・大阪市立社会福祉センター三階五号室
テーマ・「レスパイトサービスについて」
講師・大和川園長 佐藤三郎氏
事例報告その他